

中国五大学結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

9/7～8に島根県松江市総合体育館において、中国五大学が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

vs 岡山大学

○2-0 (25-17、25-20)

vs 鳥取大学

○2-0 (25-13、25-19)

vs 山口大学

○2-0 (25-9、25-23)

vs 島根大学

○2-0 (25-15、25-23)

(男子最終結果)

第1位 広島大学

第2位 島根大学

第3位 岡山大学

第4位 山口大学

第5位 鳥取大学

(女子)

vs 島根大学

○2-0 (25-12、25-18)

vs 鳥取大学

○2-0 (25-17、25-8)

vs 山口大学

●1-2 (22-25、25-23、18-25)

(女子最終結果)

- 第1位 山口大学
- 第2位 広島大学
- 第3位 鳥取大学
- 第4位 島根大学

(広大バレー部 X (Twitter))

<https://twitter.com/hiro daiVOLLEY>

男子は3年生以下で臨んだ天皇杯組に4年生が加わり、稲葉、樋口、西村紀が力不足のチームを要所で補ったことで、下級生の活躍が光り、結果も残す収穫の多い大会となりました。ライトの村上は攻撃の速さと幅が増し、レフトの山下は天皇杯から一段と逞しくなり、ピンチサーブでは1年生の丹羽と井本が効果的なジャンプサーブを連続して打ち、秋リーグに向けてさらなる成長が期待できる内容でした。また、4年生が下級生にアドバイスする姿、相手を問わず目の前の1点に集中する姿が非常に印象的で、その姿勢は特に1年生を中心に少しずつチームに浸透しつつあります。まだまだレギュラー選手でもベンチに下がると外野を向く選手がいる状況ですが、9m×18mの空間に集中し続けることは、特にホーム開催となる秋リーグ開幕週で結果を出すためには欠かせない要素になるでしょう。

女子は、トレーニングと基礎練習が中心で実戦練習はほとんどしていない状況でしたが、最終戦の山大戦でも尻上がりに調子を上げる選手が複数人いるなど、土台のみには健闘を見せました。しかし、ラリーが続けば次第に態勢が整う山大に対し、広大はラリーが続くほど態勢が崩れる一方です。攻守の切り替えが鈍く、ボールだけを見て足が止まっている場面、次の準備をしていない場面が非常に多く、本来は飛び込まなくても取れるボールがほとんどなことに気付かなければいけません。島大戦では相手がただ待っているだけで広大のボールを上げ続けたのに対し、広大は上げにいかないとボールが上がらないのが現状です。無理な2枚キャッチに加え、尾崎の右手と大前の前、東の後ろと岩永と矢野の間を狙えば、広大に勝つことは何ら難しいことではありません。

鳥取の春高選手の1年生に負けず、有川が緩急を駆使してチームを引っ張りましたが、最終セットの終盤でオープンしか上がってこないようではどうしようもありません。有馬と矢野のチャンスボールにはリズムが生まれていたものの、速い攻撃、移動攻撃なしに1部を倒せるほど甘くはありません。残り1か月、1部で通用するプレーを掲げて練習すると思いますが、知らず知らずのうちに2部で上がる、2部で決まることで満足するようになるでしょう。鳥取の1年生が見せてくれた1部のプレーをしっかりと胸に刻み、個人としてもチーム

としても飛躍的に成長する1か月を過ごして欲しいと思います。

さて、10月14日、15日に行われる秋季リーグ戦は、男女1部、女子2部ともに広島大学で行われます。

男子は平成戦と東亜戦がそれぞれ第5試合に、女子は5連敗中の山大との再戦が日曜日最終試合に組まれています。

広島大学で男女揃ってリーグ戦に出場するのは滅多にない機会ですので、ご都合のつく方はぜひ会場にてご声援ください。

たくさんの同窓生の方にお会いできることを楽しみにしています。

引き続きよろしく願いいたします。